

## コロナ禍の生理機能検査

～呼吸機能検査を中心に～

◎淀川 千尋<sup>1)</sup>  
愛知医科大学病院<sup>1)</sup>

## 【はじめに】

新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）による新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が2019年12月に中国湖北省武漢市で発生して以降、瞬く間に世界中に感染が拡大し、3年が経過した現在においても医療、公衆衛生上の問題となっている。感染対策やワクチン接種が行われ、2022年6月時点では新規陽性者数が減少傾向にあるが、変異ウイルスの出現などにより油断できない状況である。新型コロナウイルスの感染経路は飛沫感染、接触感染、エアロゾル感染とされている。生理機能検査は、直接患者と接して行う検査であり、その中でも呼吸機能検査は飛沫が発生し得る検査のため感染リスクが高い。今回、当院におけるコロナ禍の生理機能検査（呼吸機能検査を中心に）について報告する。

## 【病院内の感染対策】

当院では新型コロナウイルス感染防止のため、病院の出入口を1階正面玄関のみに集約し、来院者に検温と問診を実施している。症状のある患者はトリアージ Tent で診察をし、PCR検査を実施している。入院患者においては、入院時にPCR検査を実施している。入院中の外泊や外出は禁止している。面会は医師からの許可がある場合のみとし、面会者にマスクの着用、手洗い・手指消毒の徹底をお願いしている。

## 【当院の呼吸機能検査について】

マウスピースは滅菌済みのものを使用し、患者毎に交換している。検査後は装置や周囲環境を除菌クロスで清拭している。検査室に窓はないため、換気扇は常時作動させている。

検査担当技師は、2020年時点では、サージカルマスクとフェイスシールドを装着して検査を施行していた。しかし、2021年1月に呼吸機能検査を行った患者が検査終了後にCOVID-19陽性ということが発覚し、検査を施行した技師は濃厚接触者となり2週間の自宅待機となってしまった。これをきっかけに検査担当技師はN-95マスクとフェイスシールドを装着して検査することとなった。2021年9月、当院新型コロナウイルス感染症本部会議において職員を介した感染伝搬の可能性を否定できないことから、呼吸機能検査を行う患者は検査前日に来院してもらい、PCR検査を行い、陰性を確認することとなった。しかし、全身麻酔下で手術を行う患者は術前検査としてスパイロメトリーを実施しており、検査前日に来院してPCR検査を行うことは、患者の負担が増えるため、条件を満たしている患者に対しての術前スパイロメトリーは、血液ガス検査に代用することになった。これにより外来のスパイロメトリー検査件数は前月までと比較して3割程度まで減少した。しかし、2021年7月に発行された「呼吸機能検査ハンドブック」に「COVID-19や結核が疑われる被験者の検査は行わない」と記載されているため、当院の対応は妥当と思われる。

## 【他の生理機能検査について】

技師は、N95マスクとアイガードを装着し、手指消毒をして、検査を施行している。検査終業時に使用装置を除菌クロスで清拭するようにしている。

心電図検査、心臓超音波検査においては、心電図電極をゲレクトからディスプレイのシール電極に変更し、患者毎に交換している。

## 【まとめ】

生理機能検査室においてはCOVID-19による影響を受け、感染対策の強化、検査件数の減少など苦境をいられているが、感染拡大を防ぐために感染予防策の周知徹底を行い、適切な対応が必要であると思われる。

連絡先：愛知医科大学病院 中央臨床検査部 0561-62-3311（内線36000）